

ベビーベッドに乳児用呼吸モニター（ベビーセンス）を設置

SIDS（乳幼児突然死症候群）とは、元気に育っていた赤ちゃんがある日睡眠中に呼吸が止まって突然死亡する病気です。SIDSは、日本では2,000人～3,000人の出生に対して1人の割合で発生し、新生児期を除く乳幼児の死亡原因の第二位となっています。

ベビーセンスは、赤ちゃんの呼吸、身体の動きが異常に低下するとアラーム音とランプにより知らせてくれます。SIDSの防止のため、当クリニックでは、ベビーベッドにベビーセンスを設置し、安全対策に万全を期しております。もちろん、スタッフが赤ちゃんの様子をチェックすることも忘れません。

当クリニックは、平成17年（2005）1月27日から、実施しております。

これは、県内のほかの分娩施設と比較して、特に早期からの導入です。

当クリニックのナーススタッフは、すべて新生児蘇生コースの講習を習得しています。